

## 特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 31

### ASEAN グローバルプログラム に参加して

梅 林 卓 武  
Takumu UMEBAYASHI  
機械システム工学科 2年

#### 1. はじめに

2019年8月27日から9月5日にかけて ASEAN グローバルプログラムに参加し、ベトナム、シンガポールに滞在し様々な内容の研修を行った。日程を下記の表1に示す。プログラムの学習目標は海外での様々な体験を経験することで「未知の世界に飛び込める行動力」、「最後までやり抜くタフネスさ」、「自分の頭で考え、課題を解決する能力を向上する」ことであった。

表1 研修の行程

日程	内容
8月27日	ベトナム着 オリエンテーション
8月28日	栄光堂、イオンモール散策 Rikkei Soft 訪問
8月29日	ハノイ工業大学の学生と PBL 活動
8月30日	PBL 最終プレゼン
8月31日	ハノイ観光
9月1日	シンガポール着 WASABI CREATION の講演会
9月2日	南洋理工大学見学
9月3日	Google 訪問 若手ビジネスパーソン交流会 加藤さん講演
9月4日	自由時間 シンガポール発
9月5日	帰国

#### 2. 参加目的

1年の夏何か将来のためになることをやりたいと、決意して夏休みを迎えたが何をすれば良いのか

分からずに夏休みが終わってしまった。そして2年の春このプログラムの存在を知り、今度こそは有意義な夏休みになると決意し参加した。このプログラムでは2つの目標を立てた。1つ目は現在の自分の英語の能力で何処まで会話が成り立ち、また聞き取れるのか。また全く英語が理解できなかったとしてもどうしたら伝えられるのかを考え、英語で自分の考えを伝える力と今後英語を学習していく上でのモチベーションを得ることであった。2つ目は様々な国の文化や価値観を知ることで日本だけでなく世界で通用する考え方を習得しグローバル化が進んでいる現在、日本の企業がどのように世界に進出しているのかを学びつつ、世界にも目を向けられる広い視野を持つことであった。以上の2つのことを胸に刻みプログラムに取り組んだ。

#### 3. 研修内容

プログラムではこれまで体験したことない貴重な経験をした。中でも以下のことは特に印象強く今後の学生生活で生かしていく必要があると感じた為、ここで述べようと思う。ハノイ工業大学の学生とのPBLと、日本の菓子メーカーである栄光堂の代表の方の前でプレゼンテーションができたことは最も有意義な経験となった。このプログラムは事前に「栄光堂の塩レモンキャンディーをベトナムでヒットさせるための提案をすること」という課題のもと、まず日本で、グループで話し合っていくつか提案を作成し、ハノイ工業大学の学生と意見交流しながら提案をまとめる作業を行なった。始めは現地のベトナム人学生と上手く話し合っていけるか不安だった。交流を始める前は現地の学生も第二言語として英語を学んでいると知っていたので、自分達と同じくらい、もしくは私たちより少し英語が話せるくらいだと思っていた。ところが、ベトナム人学生たちは第二言語と思えない程流暢に英語を話していて、彼らの言っていることを全然聞き取れなかった。それと同時に自分が伝えたい事を英語で伝えることもできなかった。こうして自分の英語能力の

低さが身に染みたところでどうしたら自分の考えを伝えられるかを考え、ジェスチャーなどを交える事で相手に少しずつ伝えることができた。キャンディーを売るアイデアを検証するアンケートを二日にかけて大学内でとった。1日目は複数の仮説を立てアンケート取ったが、思うような結果には至らなかった。そしてまず自分達の班が最終的に何を伝えたいのかを考え一つの仮説に絞り、もう一度アンケートをとった。そして集計をし、プレゼンの準備を始め、完成させるまで全員で意見を出し合いプレゼン原稿を完成させた。英語で発表するのは初めての体験なので全員で分担しながら発表を行ったが、結局ベトナムの学生にほとんど頼ってしまい、私たちとベトナムの学生との間で英語の能力の差が改めて離れていることを痛感しました。その後ベトナムの学生と別れ栄光堂の代表の方の前で発表する最終プレゼンを作成するため改めて何を自分達の班は伝えたいのか考え直して、内容を見直してポスターを作成した(写真1)。私たちの発表に対する企業代表の方からの意見は的確であり大変参考になるもので、実社会で仕事する上では柔軟な考えが大切だと感じ

た。このプログラムは私たちに英語能力の不足さを感じさせ、今後の英語の学習に一層励みになった。しかし、それ以上に学んだことは一つのことをグループの全員で完成させるという協力性また企業の人たちが考えるマーケティングの奥深さや柔軟な思考の必要性など沢山のことであった。

#### 4. おわりに

今回のプログラムを通して学んだことは数知れなかった。中でも英語を使えることの重要性は特に強く感じた。英語は世界共通の言語であり、世界の人と繋がるためには英語によるコミュニケーションは必要不可欠であると感じた。これからもグローバル化が進むため英語能力は今まで以上に必要となると思う。今回のPBLで感じたベトナムの学生との英語の能力差から、私が今持つ英語の能力は不十分であると知り、改善すべき点だと感じた。ただ今までのような学習方法では英語能力は伸びないと確信できた。そのため、今まで以上にネイティブの方と会話する機会を積極的に増やし、英語をより身近なものに感じさせることが大事だと考えた。次にベトナム、シンガポールを訪れ様々な方々から企業の話聞き、日本人が海外で働くことの大変さと意義を、身をもって感じた。そんな中で訪問したGoogleで日本の方が活躍されている姿を見て「いつかこういう企業に就職できたら」という夢にもつながり、日本だけでなく海外の企業でも働いてみたいという広い視野を持つことができた。最後にこの10日間は私にとって新しい体験ばかりで有意義なものだと感じた。そして今までの自分では気付かなかったことも気付かせてくれた。このことを今後の大学での生活でも生かしていきたい。

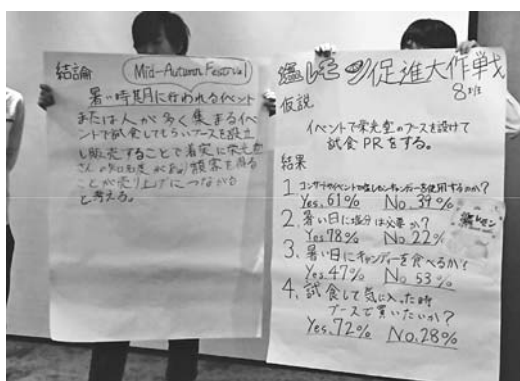


写真1 最終プレゼンテーションのポスター